



みんなで作る 元気な幸田



令和6年度第2回幸田町総合計画審議会

もっと輝く幸田を、
みんなで♪



日時 令和7年2月17日（月）
午後1時30分から午後3時



目次

1. 総合計画策定について
2. 住民意識の状況
3. 基本構想（案）
4. 将来人口



目次

1. 総合計画策定について
2. 住民意識の状況
3. 基本構想（案）
4. 将来人口

(1) 総合計画策定の趣旨

【背景】

●人口減少社会

- 国全体の人口は2008（平成10）年1億2,808万人をピークに減少

●少子化・高齢化

- 2023（令和5）年出生数（日本人のみ）は過去最少の約72万人
- 2025（令和7）年「団塊の世代」が75歳以上、
- 2040（令和22）年「団塊ジュニア世代」が65歳以上

【目的】

社会経済情勢の変化・課題を見据え、人口減少社会へ対応し、地域活力を維持するために取り組むべきまちづくりの方向性を示します。



(2) 総合計画の構成

① 基本構想

- ・ 長期的展望に立ち、「まちづくりの基本理念」及びに目指す「将来像」を定め、実現するための方向性を明らかにします。

② 基本計画

- ・ 基本構想で示したまちづくりの基本理念と将来像を実現するため、各分野の基本方針及び施策の方向性を体系的に示します。
- ・ 中でも、重きをおいて実施する分野について、重点分野として示します。

③ 実施計画

- ・ 基本計画で示した施策を実現するため、具体的な事業を示します。



総合計画の期間

年度 西暦	令和8 2026	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031	令和14 2032	令和15 2033	令和16 2034	令和17 2035
基本構想	令和8年度～令和17年度（10年間）									
基本計画	令和8年度～令和17年度（社会情勢等に応じて、令和12年頃に見直すこともある）									
実施計画	3年間									
		3年間								
			以降、毎年度3年間の実施計画を策定							





目次

1. 総合計画策定について
2. 住民意識の状況
3. 基本構想（案）
4. 将来人口

(1) 住民意識調査

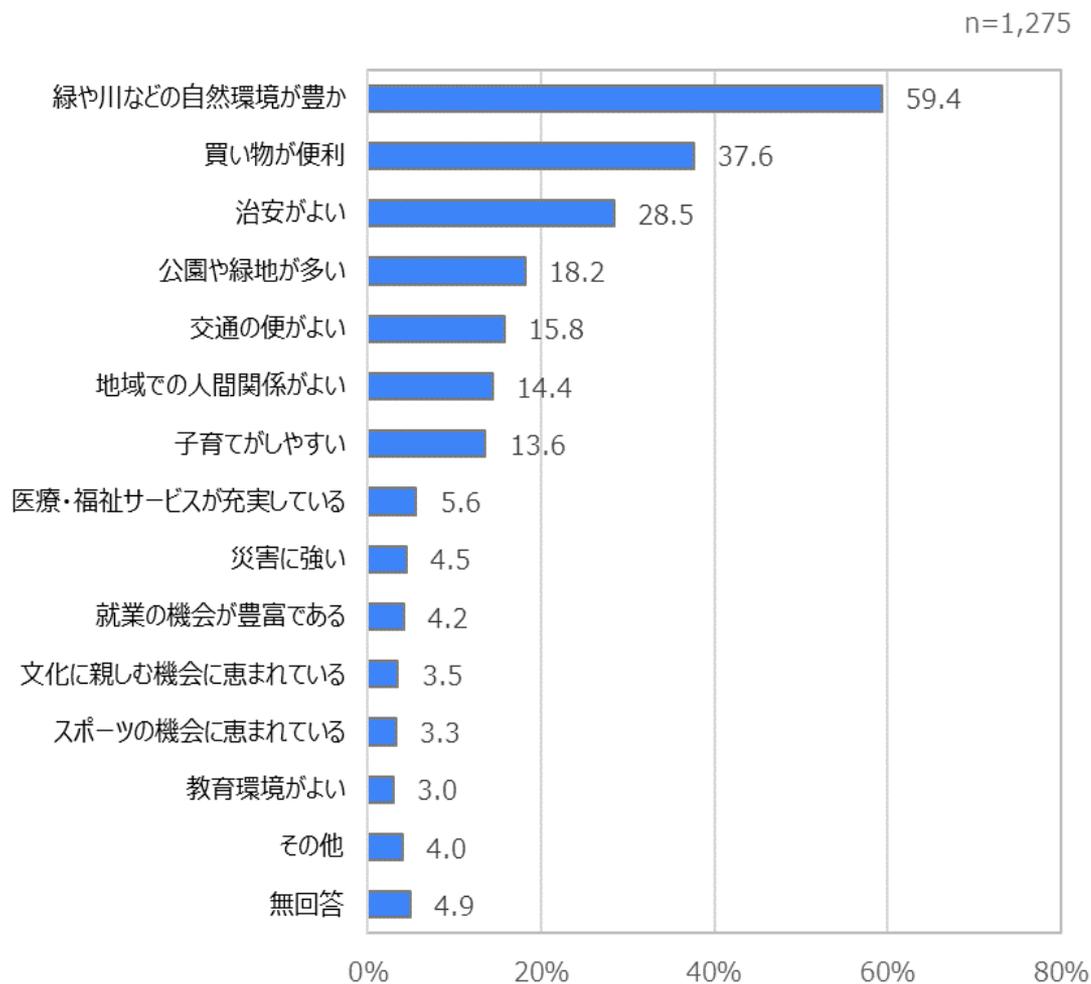
調査対象	18歳以上の町民2,000人	
調査期間	令和6年10月8日（火）～令和6年11月7日（木）	
有効回収数(率)	郵送 920 (46.0%)	Web 355 (17.8%)



(1) 幸田町住民意識調査

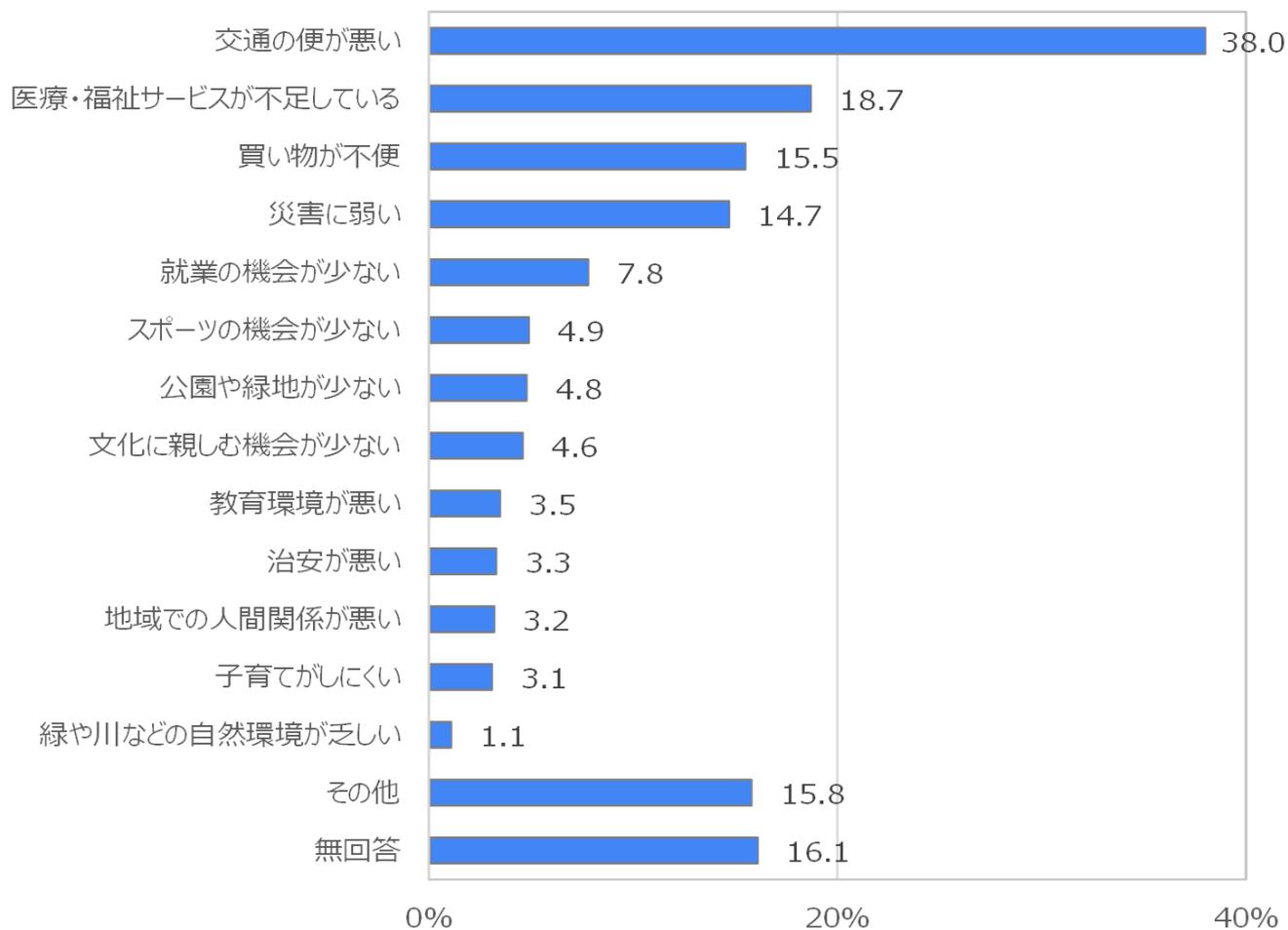
【幸田町の良いところは（複数回答）】

「緑や川などの自然環境が豊か」が59.4%と最も多く、次いで「買い物が便利」が37.6%、「治安がよい」が28.5%となりました。

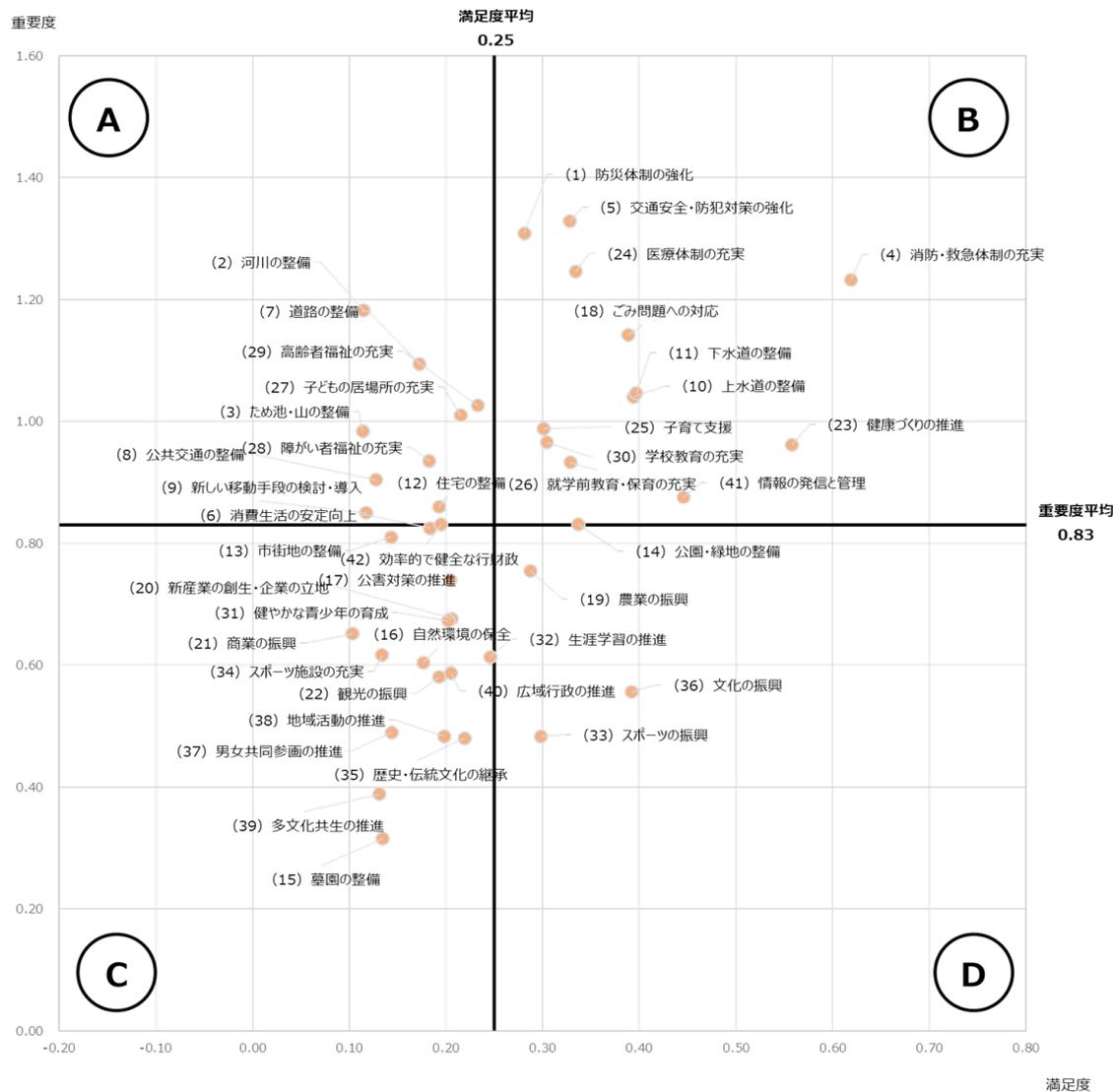


(1) 幸田町住民意識調査 【幸田町の悪いところは（複数回答）】

「交通の便が悪い」が38.0%と最も多く、次いで「医療・福祉サービスが不足している」が18.7%、「買い物が不便」が15.5%となりました。 n=1,275



(1) 幸田町住民意識調査 【総合計画施策の満足度・重要度】



(1) 幸田町住民意識調査

【総合計画施策の満足度・重要度】

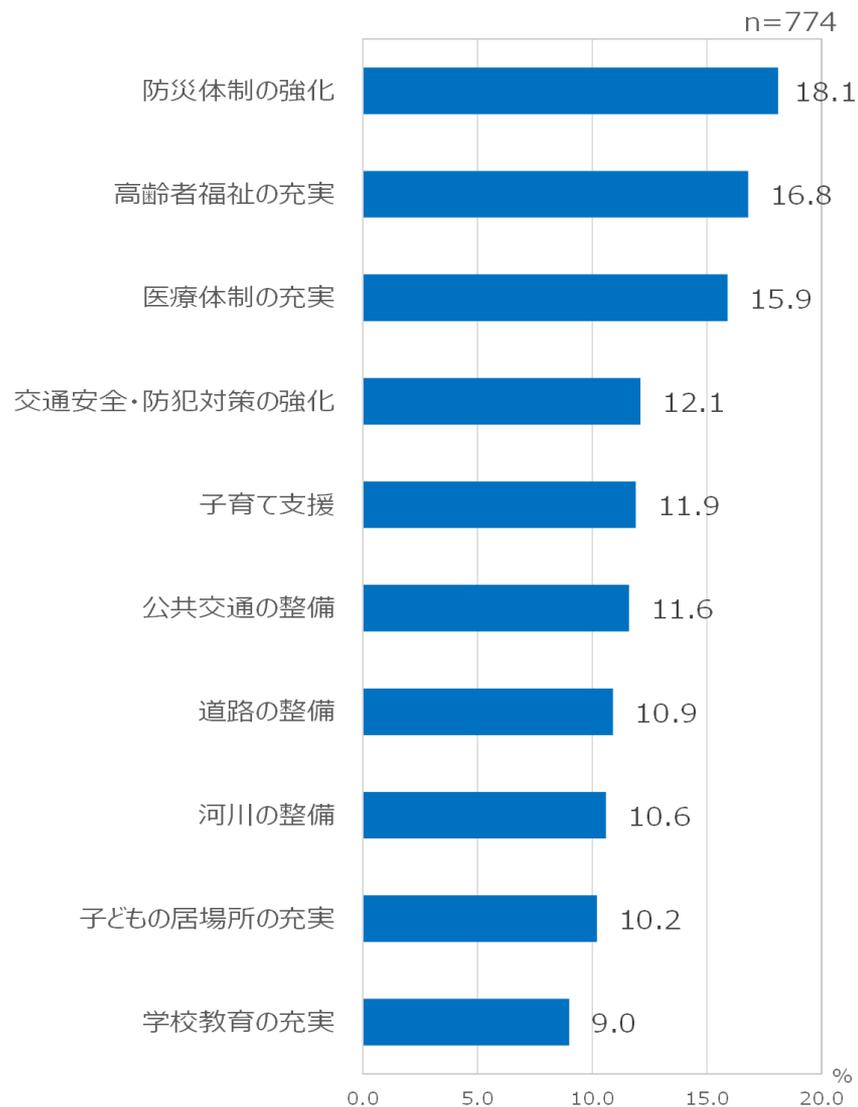
第6次総合計画の42項目の施策について、それぞれ「現状の満足度」と「今後の重要度」を5段階で尋ね、施策項目ごとに評価得点をつけて評価を行いました。

高い ↑	A 重要課題 ニーズ対応策の検討 (重要度：高い、満足度：低い)	B 維持領域 低コスト化・満足度維持 (重要度：高い、満足度：高い)
	C 見直し領域 関心度の引き上げ、廃止検討 (重要度：低い、満足度：低い)	D 縮小領域 規模縮小 (重要度：低い、満足度：高い)
低い	満足度 → 高い	

(1) 幸田町住民意識調査 【施策の優先度】

第6次総合計画にある42項目の施策のうち、特に力を入れてほしいものを尋ねたところ、「**防災体制の強化**」が18.1%で最も高く、次いで「**高齢者福祉の充実**」が16.8%、「**医療体制の充実**」が15.9%となりました。

右図は上位10項目の施策です。



(2) 子育て世代アンケート調査

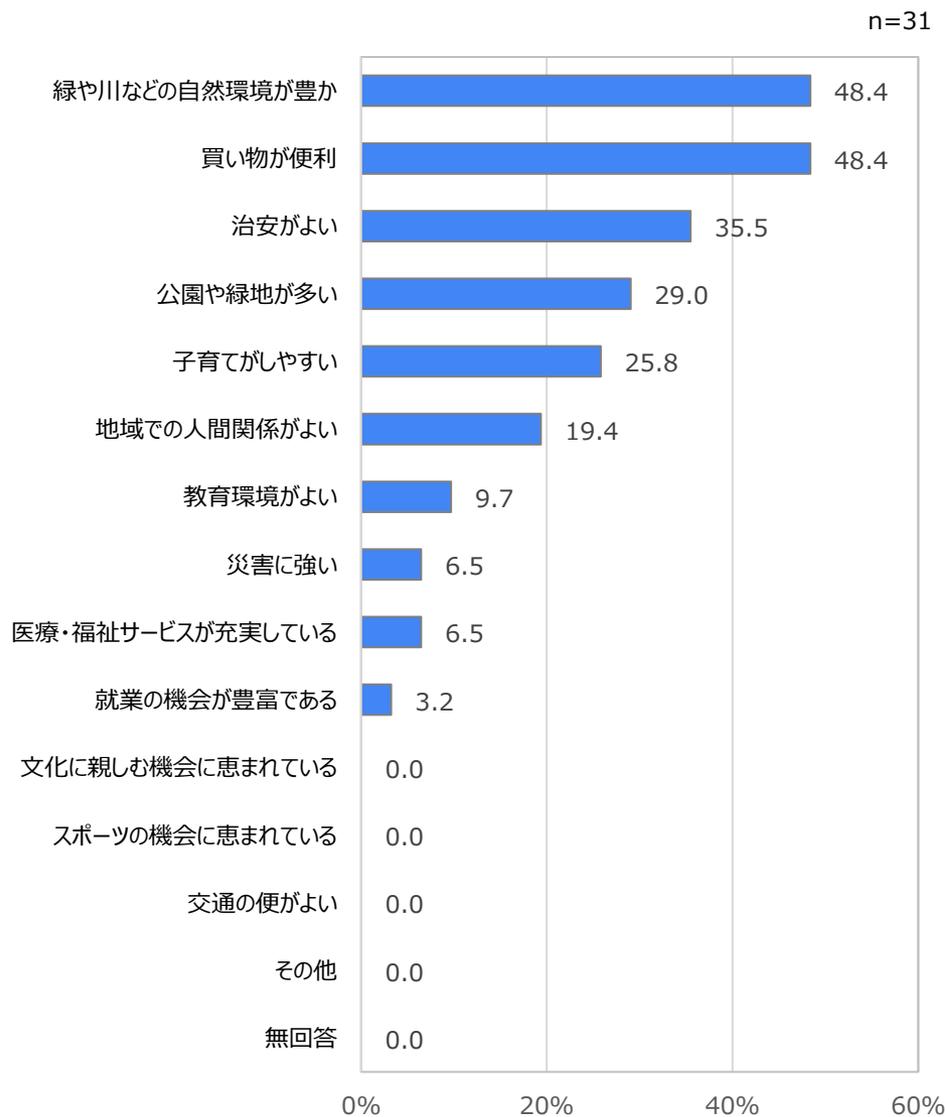
調査対象	1歳6か月児、3歳児健診に来場した町民162人
調査期間	令和6年10月22日（火）～令和7年1月9日（木）
有効回収数(率)	31（19.1%）



(2) 子育て世代アンケート調査 【幸田町の良いところは（複数回答）】

「緑や川などの自然環境が豊か」と「買い物が便利」が同率で48.4%と最も多く、次いで「治安がよい」が35.5%となりました。

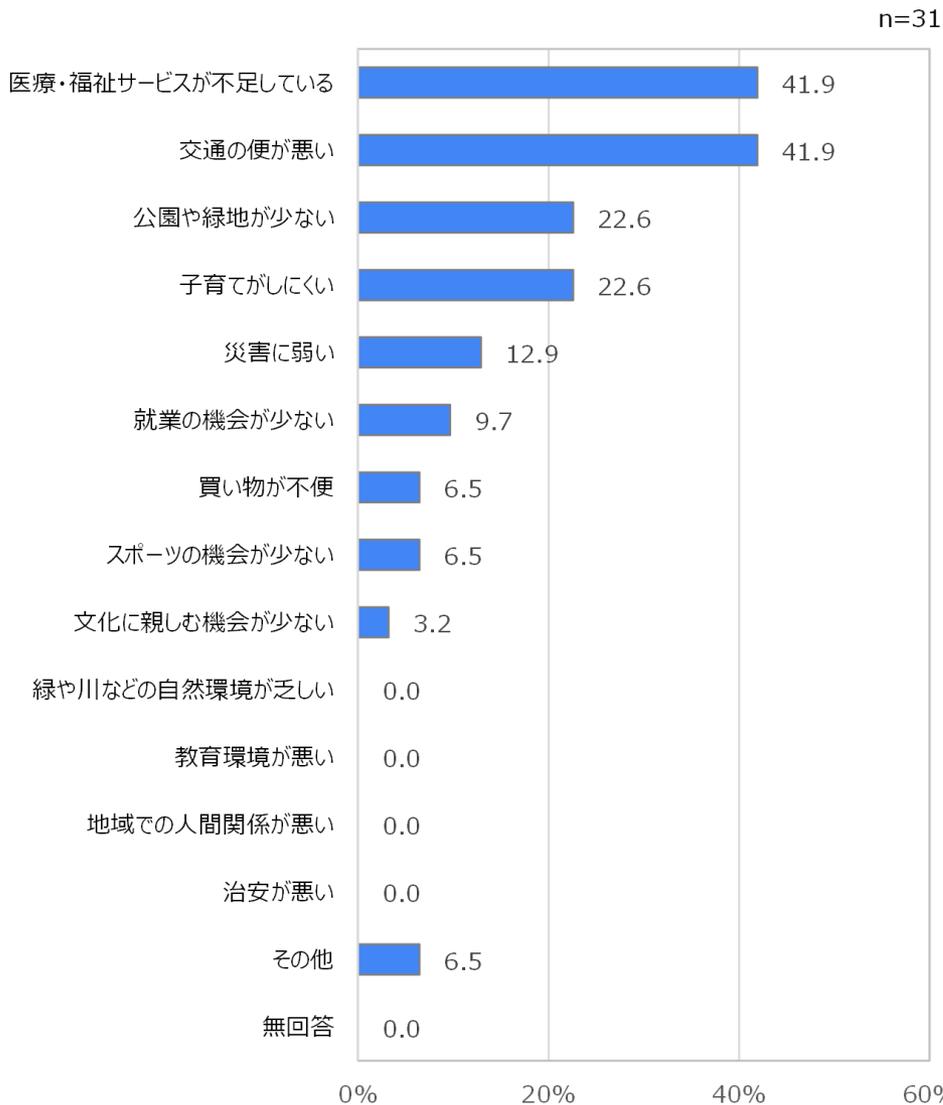
「公園や緑地が多い」を含め、上位4つは住民意識調査と同じ結果でした。



(2) 子育て世代アンケート調査 【幸田町の悪いところは（複数回答）】

「医療・福祉サービスが不足している」と「交通の便が悪い」が同率で41.9%と最も多く、次いで「公園や緑地が少ない」が22.6%となりました。

住民意識調査との比較では上位2つは同じでしたが、それ以降は異なりました。



(2) 子育て世代アンケート調査

【将来なって欲しい町のイメージは（複数回答）】

「教育に積極的で子育てしやすいまち」が83.9%と最も多く、次いで「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が51.6%、「自然と都市機能が調和している環境と共生したまち」が41.9%と続いています。



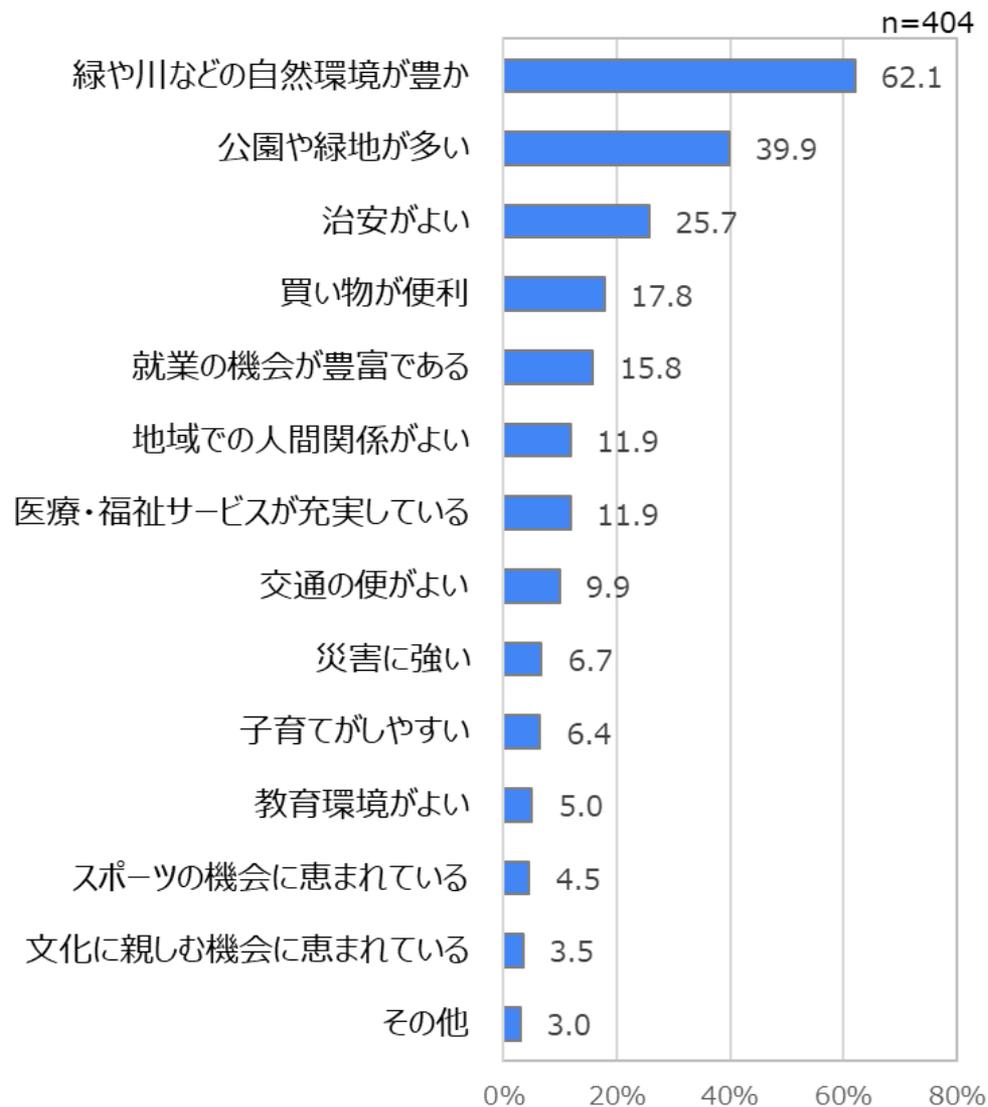
(3) 若者アンケート調査

調査対象	高校生世代592人
調査期間	令和6年12月5日（木）～令和6年12月26日（木）
有効回収数(率)	404（68.2%）



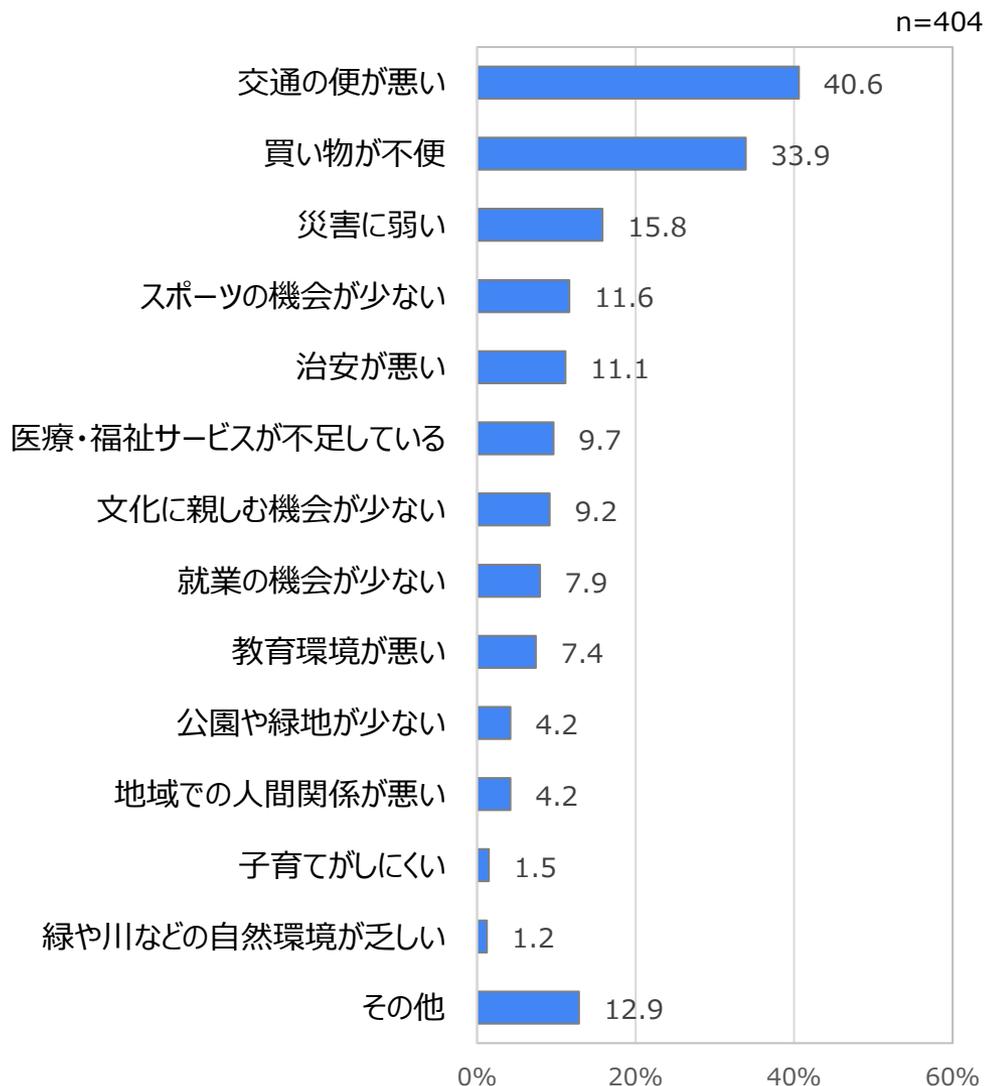
(3) 若者アンケート調査 【幸田町の良いところは（複数回答）】

「緑や川などの自然環境が豊か」が62.1%と最も多く、次いで「公園や緑地が多い」が39.9、「治安がよい」が25.7%、「買い物 convenient」17.8%となり、上位4つは住民意識調査や子育て世代アンケートの結果と同じでした。



(3) 若者アンケート調査 【幸田町の悪いところは（複数回答）】

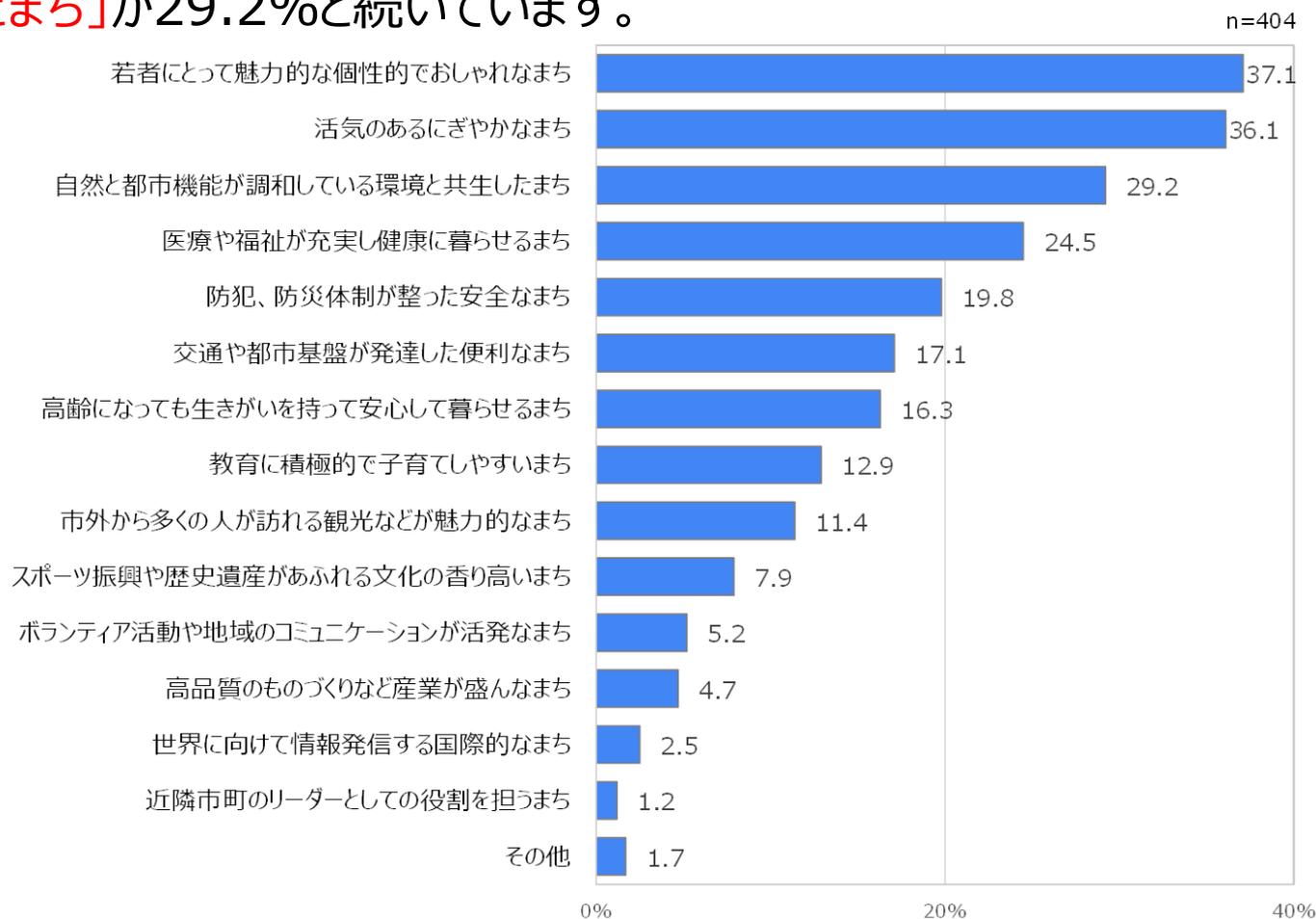
「交通の便が悪い」が40.6%と最も多く、次いで「買い物が不便」が33.9%、「災害に弱い」が15.8%となっています。これら上位3つの項目は住民意識調査や子育て世代アンケートでも、上位に含まれています



(3) 若者アンケート調査

【将来なって欲しい町のイメージは（複数回答）】

「若者にとって魅力的な個性的でおしゃれなまち」が37.1%と最も多く、次いで「活気のあるにぎやかなまち」が36.1%、「自然と都市機能が調和している環境と共生したまち」が29.2%と続いています。



(4) 地域ワークショップ

地域住民が日頃の生活を通じて幸田町について感じたり、考えたりしていることをまちづくりに生かすことを目的に、小学校区を南部、中部、北部の3つの地区に分けて、住民ワークショップを計3回行いました。

第1回

令和6年12月23日（月）午後7時から午後8時30分まで
南部地区 豊坂小学校区・深溝小学校区 22人

第2回

令和7年1月7日(火) 午後7時から午後8時30分まで
中部地区 中央小学校区・荻谷小学校区 32人

第3回

令和7年1月10日(金) 午後7時から午後8時30分まで
北部地区 坂崎小学校区・幸田小学校区 30人



(4) 地域ワークショップ



(4) 地域ワークショップ

幸田町の良いところ (変わらないでほしいところ)	幸田町の悪いところ (変わってほしいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊か（山がある、海が近い、緑が豊か、田畑が多い、街と自然が調和 など） ・ 特産物がある（フルーツの町、農業が盛ん） ・ JRの駅がある（交通の便が良い） ・ 行政と住民の距離感が近い ・ ちょうど良い規模感（田舎ののどかさや生活の便利さが両立している、町のままでよい） ・ 買い物等に困らない（スーパーが多い） ・ 地域のつながりが強い（残っている、人間関係が良い、挨拶を返してくれる） <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通が不十分（車がないと不便、バスや電車の本数が少ない） ・ 道路が狭い ・ 駅前が寂しい ・ 子どもの遊ぶ施設・公園が少ない ・ 医療施設が不十分（産婦人科がないなど） ・ 山林が手入れされていない、耕作放棄地が増えている ・ 大型商業施設や飲食店が少ない ・ 地域の行事や役が多い <p style="text-align: right;">など</p>



(4) 地域ワークショップ

10年後どんな町にしたいですか

- ・レクリエーション施設（キャンプ場、総合体育館、防災公園、ウォーキングコース等）がある
- ・商業施設（ショッピングモール、サウナ、映画館）が充実している
- ・車が無くても移動できる
- ・子育てしやすいまち（産婦人科がある、子どもが見守れている、子どもが遊べる等）
- ・田園風景の美しい町（農業を活す、水田を残す、里山の整備）
- ・駅周辺（三ヶ根駅、幸田駅、相見駅）が整備されている

など



2. 住民意識の状況

(5) 小学生ワークショップ

子どもたちが、日頃幸田町について感じていること、考えていることを拾い上げ、まちづくりへの興味を持つきっかけとしたり、柔軟な発想をいかしてまちづくりについて提案したりする機会を創出することを目的に、4つの小学校で児童クラブにおいて主に2年生から6年生までの児童に意見を出してもらいました。

第1回	令和6年10月10日（木）午後4時5分から午後4時35分まで 深溝小学校第2児童クラブ 21人
第2回	令和6年10月17日（木）午後3時15分から午後3時45分まで 豊坂小学校第2児童クラブ 40人
第3回	令和6年10月21日（月）午後3時45分から午後4時15分まで 幸田小学校第3児童クラブ 21人
第4回	令和6年10月23日（水）— 幸田小学校第4児童クラブ 26人
第5回	令和6年10月24日（木）午後3時30分から午後4時まで 中央小学校第3児童クラブ 18人



(5) 小学生ワークショップ



(5) 小学生ワークショップ

幸田町の良いところ (変わらないでほしいところ)	幸田町の悪いところ (変わってほしいところ)
<ul style="list-style-type: none">・ 自然が豊か (山が沢山ある、緑が豊かなど)・ 災害が少ない (地震が少ない、台風がないなど)・ 安全・平和 (戦争がないなど)・ 美味しいものがある (食べ物が美味しい、野菜が美味しいなど)・ 優しい (優しい人がいっぱい、挨拶してくれるなど) など	<ul style="list-style-type: none">・ ゴミが多い (ポイ捨てが多い、タバコの吸い殻が多いところがあるなど)・ 事件・事故が多い (不審者がいる、泥棒が多い、強盗があるなど)・ 虫が多い など



(5) 小学生ワークショップ

10年後どんな町にしたいですか

- ・ 安全・平和な町（事件・事故がない、戦争がおきないなど）
- ・ みんなが幸せな町（優しい町、楽しい町など）
- ・ ゴミが落ちていない町（ポイ捨てがないなど）

など





目次

1. 総合計画策定について
2. 住民意識の状況
- 3. 基本構想（案）**
4. 将来人口

(1) まちづくりの理念

住民意識調査やワークショップから、豊かな自然・農業を守り続け、そして、生活しやすい・働きやすい都市機能の充実といったバランスがよいまちづくりを求められる意見を多くいただいた。

このことから、「幸田町総合計画」から「第6次幸田町総合計画」まで、これまで全ての総合計画で継続して掲げてきた理念を引き継ぎ、第7次でも同理念とする。

「人と自然と産業の調和」



(2) まちづくりの将来像

① 過去の総合計画の将来像

幸田町総合計画・新総合計画	人間尊重の理念に基づく健康的な「住みよい町」
第3次幸田町総合計画	緑のなかの豊かな活力ある文化都市
第4次幸田町総合計画	やさしい いきいき 伸びるまち 「躍動と創造の緑住文化都市」
第5次幸田町総合計画	夢のある、心かよう、活力あるまち 「人と自然を大切にする緑住文化都市」
第6次幸田町総合計画	「みんなでつくる 元気な幸田」



② 第7次総合計画の将来像（案）

合併70周年を迎え、これまで積み重ねてきた成果と培ってきた人々の想いを受け止め、未来に向けて挑戦、成長することを念頭に、多様な住民一人ひとりが幸せを感じるまちづくりを目指します。

住民の皆様や事業者、団体など、町全体で豊かな自然とまちの活力を次世代につなげる思いを込め、合併70周年のキャッチフレーズとして馴染みのある「もっと輝く幸田を、みんなで♪」と第4次総合計画から引き継がれる、身近な自然と質の高い住環境、暮らしを彩る多彩な文化と自ら考え行動する気風を表す「緑住文化都市」を合わせ、まちづくりの将来像とします。

もっと輝く幸田を、みんなで♪
「未来につなぐ緑住文化都市」



(3) まちづくりの重点分野（案）

人口減少社会

- 幸田町人口 2020（令和2）年42,449人（国勢調査）がピーク、今後横ばいから緩やかな減少に向かうと推計
- 労働力の減少、地域活力の低下、社会保障費の増加などの影響が懸念

住民意識調査

- 優先度の高い施策 「防災体制の強化」「高齢者福祉の充実」「子育て支援」「公共交通の整備」など

住民ワークショップ

- 10年後のまち 「災害に強いまち」や「子育てがしやすいまち」「高齢者が元気に暮らせる」など

<重点分野>

- 高齢化社会へ備える
- 子どもを育み、家族を支える
- 広く連携し、災害に備える
- 人と環境に優しい産業を育てる
- みんなが集うまちの仕組みを整える



(4) まちづくりの基本目標 (案)

社会情勢の変化	求められる対応
少子高齢化・人口減少社会の到来	人口構造の変化に伴う課題への対応
安全・安心意識の高まり	増加する自然災害リスクへの備え
環境問題への意識の高まり	環境保全、カーボンニュートラルへの取り組み
デジタル化の進展	行政サービスのデジタル化推進
SDGsに向けた社会的な関心の広がり	SDGsの達成に関連した取り組み
新たな交通インフラの整備	住民ニーズに合わせた公共交通の提供



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(1) 暮らしやすいまち
＜安心・安全＞

(2) 持続可能なまち
＜環境＞

(3) 活力とにぎわい
のあるまち
＜産業振興＞

(4) 健やかに
暮らせるまち
＜健康・福祉＞

(5) 誰もが
学べるまち
＜教育・文化＞

(6) 共に支えるまち
＜協働・参画＞



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(1) 暮らしやすいまち <安心・安全>

- ① 生命・財産を守る (自然災害リスクへの備え)
- ② 安心して出かけられる (公共交通の利便性向上)
- ③ 便利で安全な交通網
- ④ 安全な水
- ⑤ 良好な住環境 (定住者の確保)
- ⑥ 快適な都市環境



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(2) 持続可能なまち ＜環境＞

- ① 豊かな自然
- ② 清潔なまち
- ③ カーボンニュートラル
- ④ SDGs未来都市の達成



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(3) 活力とにぎわいのあるまち ＜産業振興＞

- ①実り多い農業
- ②成長する製造業
- ③賑やかな商業
- ④楽しい観光業 (関係・交流人口の増加)
- ⑤タウンプロモーション



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(4) 健やかに暮らせるまち <健康・福祉>

- ①みんな健康
- ②安心して子育て
- ③障がいのある人と共に
- ④元気で笑顔の高齢者



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(5) 誰もが学べるまち ＜教育・文化＞

- ① 良好な教育環境
- ② 充実した生涯学習
- ③ 歴史・文化を大切に



(4) まちづくりの基本目標 (案)

(6) 共に支えるまち ＜協働・参画＞

- ①男女共同参画
- ②多文化共生
- ③効率的で計画的な町政
- ④行政サービスのデジタル化

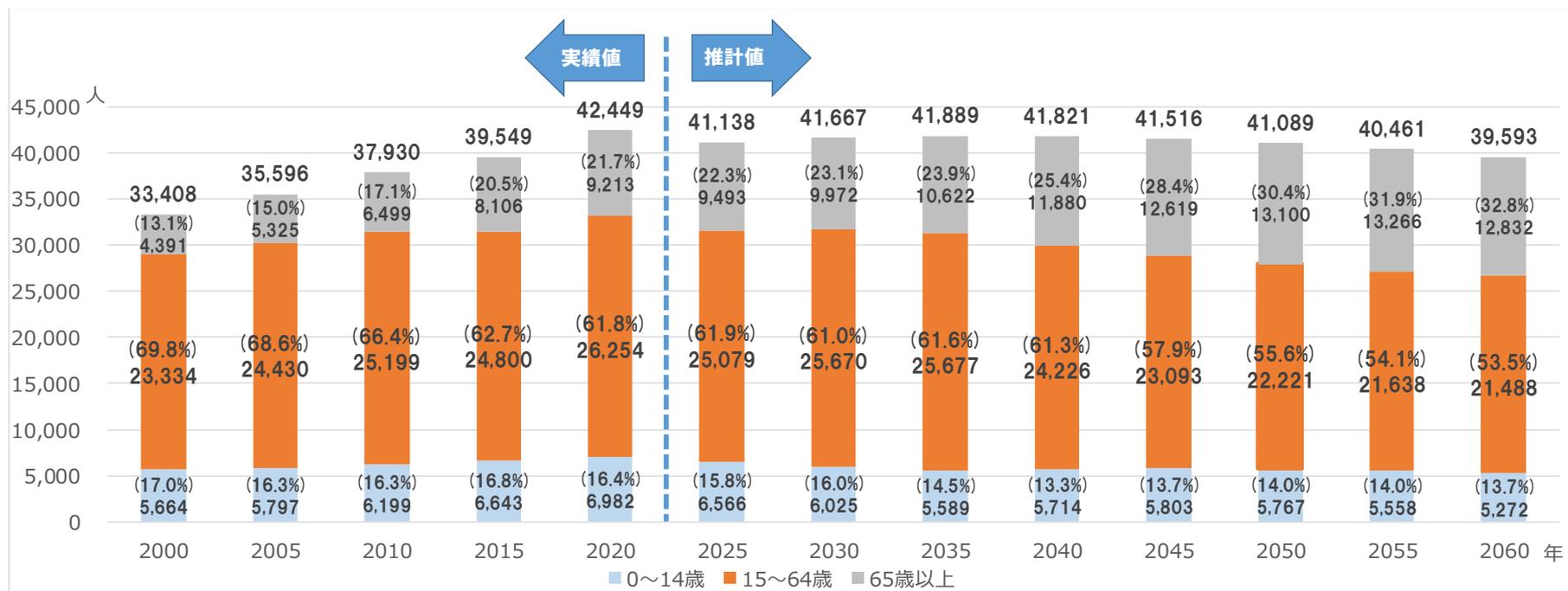




目次

1. 総合計画策定について
2. 住民意識の状況
3. 基本構想（案）
4. 将来人口

4. 将来人口 (1) 人口推計



出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」



4. 将来人口 (2) 人口目標

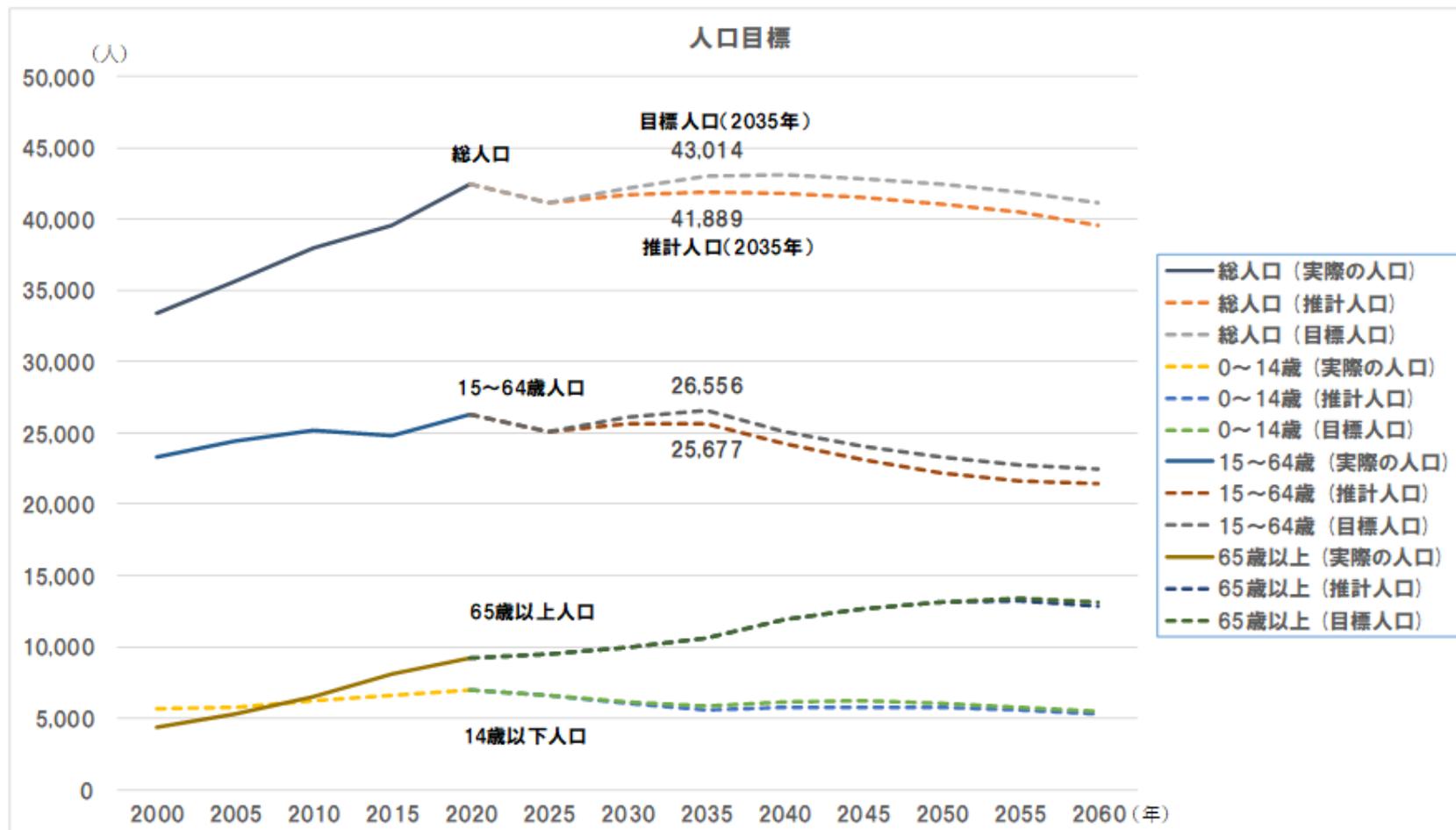
2035（令和17）年の人口目標 **43,000人**

目標達成に向けて

- ① 合計特殊出生率が、国の目標とする希望出生率1.8%へ段階的に上昇
 - ・2025年1.67%→2030年1.73%→2035年1.80%
- ② 20歳～39歳の人口移動率が、2025～2030年および2030～2035年の間で推計よりも5%程度改善
 - ・人口増加数が2025～2030年で約420人、2030～2035年で約450人、推計値より多くなる



4. 将来人口 (2) 人口目標



出所：内閣府「将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版)」

